ひむかいの塔について

先の大戦において最後の決戦場となった沖縄の戦地で亡くなられた本県出身の戦没者をお慰めするため、昭和４０年１１月１８日に竣工した。

終戦２５周年にあたる昭和４５年に塔域を改修し、沖縄以外の各戦場で亡くなられた戦没者を合わせて祀り、毎年１１月１８日前後に宮崎県戦没者等慰霊奉賛会主催により追悼式が行われている。

１　所在地

沖縄県糸満市米須西原
日本本土の防壁となって苛烈を極めた沖縄戦の最後の激戦地。
本県出身の将兵が、最も多く戦没した地を選んで建立したもの。

２　規模

敷地総面積　１，１１３平方メートル

３　由来

塔の本体は、本県延岡市産出の自然石を祓い清め、県民の真心をこめて建立したもの。塔の本体が横たえて安置されてあるのは、御霊たちの安息されたお姿を象徴している。

また、塔域は炎暑の厳しい南溟（なんめい）の地にあって、御霊たちが静かな樹陰で安らかにお鎮まりいただけますようにと、緑化・植樹がされている。

４　合祀柱数

３１，２３７柱
（昭和４０年１１月１８日　沖縄戦域の戦没者　　１，８４８柱）
（昭和４５年１１月１８日　沖縄戦域以外の戦没者　２９，３８９柱）

現地写真



ひむかいの塔



石碑①（昭和４０年設置）



石碑②（昭和４５年設置）